

テーマ1. 「子どもたちに自分たちの住む町の暮らしや、

それに繋がる選挙に興味を持ってもらう方法」

《SNS・インターネット》

- ・投票したことをSNSに投稿すると、地域のお店などで割引を受けられるという仕組みがあってもよいのでは。(A)
- ・SNSは、その人の興味関心がある情報がおすすめされるようになってい
るため、興味のない人へは届かないのではないか。(A)
- ・子どもたちは、情報の取捨選択が上手いというか、興味のある話しか目にならない環境に置かれてると思う。検索したら出てくる環境。(A)
- ・若者は、マスコミの報道だけでなく、インターネットやSNSで様々な情報を調べることができるのは強みだと思う。(B)

《選挙の方法》

- ・選挙会場に出向き、投票するというハードルが高い。(A)
- ・割引券を配って選挙に行ってもらうのは違うと思う。自分たちの暮らしが
どうなるのかが上手く伝われば、投票率は上がると思う。(A)
- ・オンライン投票は良いと思う反面、気軽にできることで、1票の価値が下がってしまうのではないか。(A)
- ・若者が興味があることと選挙を上手くマッチングしないといけないと思う。
- ・20代30代の人が皆投票をしても、61歳以上の人口の半分にも満たない
と聞いたことがある。それを聞いて、政治に参加をしても、結局、意見が
反映されにくい環境にあるのではと思った。選挙制度自体を変えないと、反映されにくいのではないか。(B)
- ・年齢層で投票の比率を出して、その結果が見えるようにしたら良いのではないか。(B)

《こども目線の選挙》

- ・子どもたちにとって、選挙に行ってよかったと直接的に感じるメリットがないのではないか。今は、投票に行ってる人の年齢層が高いから、その層に向けての政策が多く、子どもたちが何かメリットを感じる部分の政策が少ない、イコール投票に行っていないのではないか。(A)
- ・選挙運動をする車など、大々的にやっているものは、すべて大人目線のものが多い。(A)

《当事者意識》

- ・こどもの頃は、親に「育てられる」「与えられる」立場であるため、社会の状況の変化を間接的に影響を受けている。そのため、子どもたちは社会の状況の変化に気づきにくいと思う。(A)
- ・子どもたちが当事者意識を持つことは難しいと思う。(A)
- ・政治などへの若者の無関心が問題視されている。こどもたちは、無関心でいられても無関係ではられないと思っている。自分が置かれてる環境や将来の選択はすべて、今の政治が自分たちに関係しているが、関係していることを感じられないような社会の作りになっていると思う。(B)

《知る機会・興味関心を持つきっかけ》

- ・政党と地域住民による座談会への参加や、通学中に演説をしている人と話をする機会があり、選挙や町の暮らしに興味を持つようになった。(A)
- ・純粹に町の暮らしについて話す場を見たことがない。地域性にもよるのだろうか。(A)
- ・実際に様々な活動がされていても情報が届いていないことがあるのではないか。(A)
- ・選挙に行くことだけでなく、動いた先の情報収集能力が大切であると思う。
- ・こどもと周りの大人の関わりがキーワードになりそう。また、子ども委員の皆さんが興味があるのは、興味関心を持つきっかけがあったことも大きかったのではないかと。(A)

- ・大阪では、地域に興味を持つきっかけとして、地元の中・高生が一緒になって、産地のものを売り出すなど商店街を盛り上げる事業をしている。(A)
- ・模擬裁判のような形で体験しながら勉強することで、楽しみながら学べるのではないか。教育の面から工夫することも大切であると思う。(A)
- ・生徒会長を決める時に実際の投票箱を使って決めたことがある。(A)
- ・地域の文化活動や体育活動といった場に参加することで、自分の町の暮らしや選挙への関心に繋がるのではないか。(B)
- ・一番最初に要望実現する機会が18歳の選挙権が与えられたときというのは、遅いと思う。学校の中には、学生たちが、意見を伝える場として、生徒会などがある。(B)
- ・若者に、「政治に関心を持ちましょう」と言っても、学生は学校や部活、習い事などで忙しく、働いてる世代や子育て世代も子育て、仕事、趣味などで毎日忙しく動いている。そこで、学校の授業で取り入れることや、レジ袋にお金がかかることなどの日常生活が全て政治と繋がってるという意識を幼い頃から持つことが大切であると思う。(B)

《こどもの意思決定》

- ・大人に決められたことをこなしていくだけのこどもがすごく多いと思っている。これは、こどもたちだけの責任ではなく、社会の作りや教育制度などに問題があると思う。「興味があることに没頭する」「疑問に思うことを追求する」「不快に思うことをきちんと伝える」というような人間としての根本的なところが、自己決定に繋がっていくと思う。(B)
- ・現在、生徒会に所属しているが、意見が通りづらいと感じている。例えば、LGBTQの関係で体操服の色を男女別とするのではなく統一するのはどうかと提案すると、PTAや先生の間で、何回も協議が必要である。(B)
- ・他の学校はやってないという理由で、先行事例になりたくないということや、横並びでいきたいということもあるのではないか。(B)
- ・大人の考える「大体ここら辺」というところに入らないと、話を聞いてくれないというのはすごくもったいないと思う。大人がもっとその枠を広げ

てあげないといけないのに。 (B)

- コロナ禍により、学校行事ができなくなったり、さまざまなことが制限された。今は、徐々に元の生活に戻っているが、コロナ禍前のようなパワーはなく、一段階縮まっているように感じている。(B)
- 先生にとっては、学校行事は毎年あるが、学生にとっては、一度きりである。また、先生はコロナ禍の学生生活を体験していないが、学生にとっては、コロナ禍でできなかった行事が多い分、貴重な1回である。(B)
- 校則でもマスクの着用でも、配慮として全てを一括りにするのは違うと思う。配慮とは何かを答えれたらもっと変わってくると思う。(B)
- これが課題だから、ここを解決するだけではいけないと思う。様々な面を見て、対応していかなければ、一部が改善されてもその他でバランスを崩してしまう。(B)
- 課題解決をするにあたっては、それを主張した人たちだけで作っていくよりは、別の視点での意見も求めて、作っていくことが大切である。(B)
- こどもたちの意見や発言を「こどもには関係ないから」「こどもだからわからないでしょ」と言うのではなく、こどもも1人の人として意見を尊重し、受け止めてあげることが大切であると思う。(B)